

おひざのうえで 2025⑦

(副園長の子育て応援 Letter)

「成長の過程」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



発表会には、たくさんのご来場をいただき、ありがとうございました。

保護者の皆様には、それぞれにさまざまな思いでご覧いただいたことと思いますが、どのような感想をお持ちになりましたか。お子さまの姿から、成長やその子らしさを感じていただけていましたら嬉しく思います。

当日ご参観くださった来賓の先生から、次のような感想をいただきました。
「いろいろな幼稚園の発表会を観てきたけど、ここはどこか違うのよね。何が違うのかなと考えると、空気感なのかな。子どもが間違えたり失敗したりしたときに、会場がピリピリと緊張するところがあるんだけど、せんりひじり幼稚園では、先生たちが温かいのよね。見守っているのよね。たとえ間違えても、そのあと子どもたちがどうするのかを楽しみにしているようにさえ感じるの。」

このお言葉は、うちの園の行事に対する考え方をよくご理解いただいているお言葉だったので、とても嬉しく思いました。

行事のたびにお伝えしておりますが、私たちは「当日のできばえ」だけでなく、そこに至るまでの過程こそが何より大切だと考えています。作り上げていく日々の中に、子どもたちの育ちがたくさん詰まっているからです。

特に年長組は、みんなで一つの劇を創り上げる過程の中で、「もっとこうしたらカッコいいよ」「こう言ったほうが言いやすいよね」と、子どもたち同士で意見を出し合いながら、よりよい表現を模索しながら創り上げていきました。フック船長が本当に海に落ちたように見せるためにマットを敷いて思いきり飛び込んでみたり、以前のお店屋さんごっこで使ったケーキを登場させて物語を盛り上げたり、髭ダンスや早口言葉を取り入れたり、遊び心と工夫があちこちに見られました。

しかし、一人で台詞を言うことは決して簡単なことではありません。「恥ずかしい」「緊張する」という気持ちと向き合いながら、自分の番をしっかりとやり遂げ、次の友だちへと“セリフのバトン”をつないでいく姿



には、大きな責任感と成長が感じられました。頼もしさと楽しさの両方が伝わる、年長児らしい見ごたえのある劇でした。

年中組は、年長組のように「お客さんからどう見えるか」よりも、友だちと一緒に劇遊びそのものを楽しむ姿が印象的でした。物語の世界の中に入り込み、自分の役になりきることが楽しくて仕方がない様子が伝わり、友達と共にいる安心感の中で、のびのびと表現している姿が微笑ましく感じられました。



年少組は、練習を重ねて仕上げるというよりも、お話の世界で思いきり遊ぶ感覚に近いものです。動物や恐竜になりきって遊ぶ延長線上に、劇ごっこがあります。練習の回数は少なく、役になって遊ぶ時間を楽しみます。

当日は、「動物になりきる」以上に、「お家の人に来てくれた」という嬉しさがあふれていました。嬉しくてたまらず、舞台の上を行ったり来たりしたり、何度も手を振ったり、自分の出番が待ちきれなかったり、舞台を何度も飛び降りたり、舞台を降りてお家の方のもとへ走っていく姿もありました。その姿は、三歳児にとってとても自然な姿です。「見てもらえる喜び」が全身からあふれ出していたのだと思います。



こうした経験を一つひとつ積み重ねながら、子どもたちは年齢とともに、「見てもらうからこそ、カッコよく演じたい」「友だちと力を合わせてやり遂げたい」という思いへと少しずつ育っていきます。中には、「もう少し役になりきってほしかった」と感じられた方もいらっしゃるかもしれませんが、それでも、「年少組らしい姿でしたね」「かわいかったです」と温かく受け止めてくださるお声もあり、心より感謝しております。

以前は三学年の劇を一度にご覧いただいておりますので、三歳・四歳・五歳の成長の違いを感じていただける機会でもありました。一方で、大勢の中でわが子の姿が見にくいというご意見や、子どもたちが保護者の方を見つけられず不安そうにする様子もありました。そこで現在は、一クラスずつ入れ替わり制にし、より近くで、ゆったりとお子さまの姿をご覧いただける形にしました。

来年、再来年と、子どもたちがどのように表現していくのか、どうぞ楽しみにしててください。年齢ごとの育ちの違いが、きっとまた新たな感動になると思います。

これからも、結果よりもその過程や子どもたち一人ひとりの気持ちを大切にしながら、日々の表現活動を重ねていきたいと思っております。温かく見守っていただき、本当にありがとうございました。